

5 高齢者のようす

総人口に占める65歳以上人口の割合は29.3%と過去最高

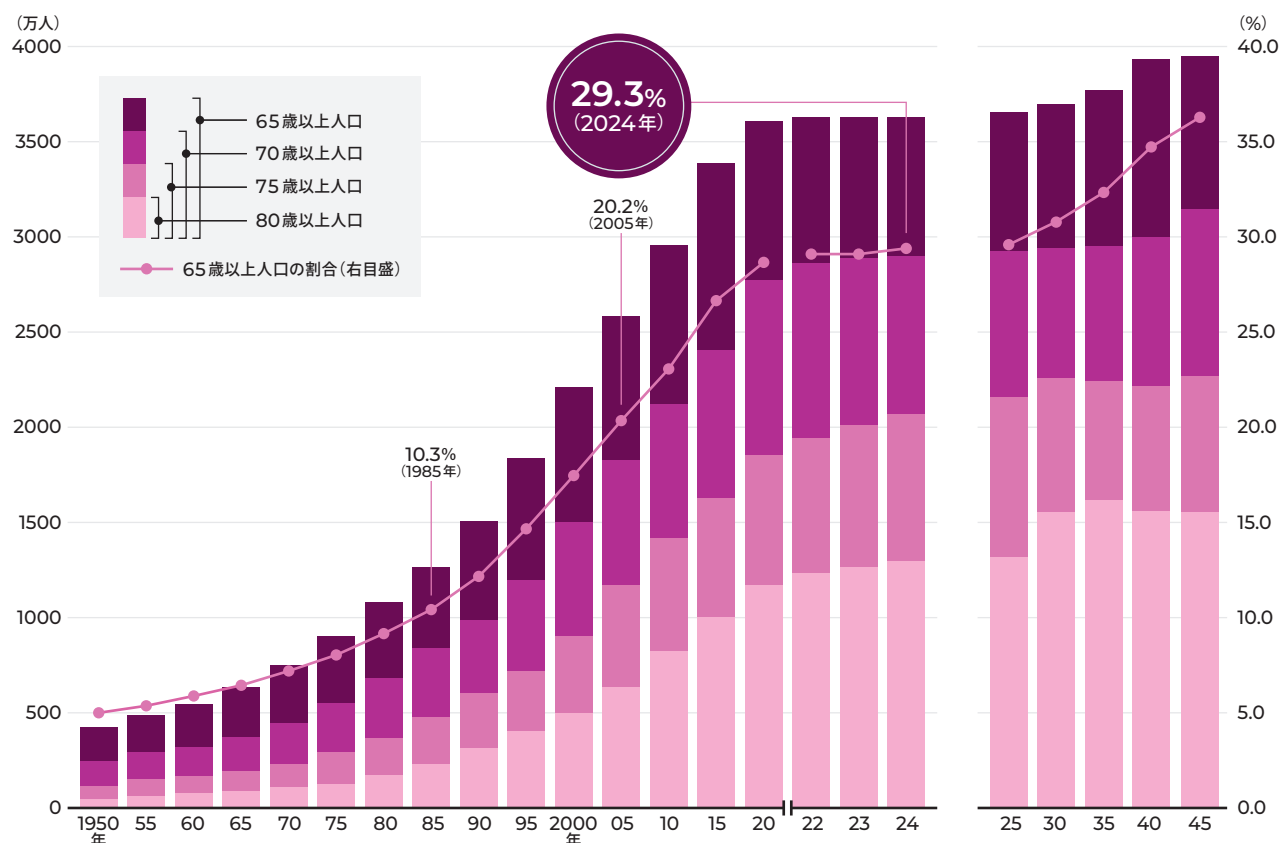
65歳以上人口及び割合の推移(1950年～2045年)

2024年10月1日現在の65歳以上人口は3624万人と、2022年と並び過去最多、総人口に占める割合は29.3%となり、過去最高となりました。

総人口に占める65歳以上人口の割合の推移をみると、1950年以降一貫として上昇が続いており、1985年に10%、2005年

に20%を超え、2024年は29.3%と過去最高を更新しています。

この割合は今後も上昇を続け、第2次ベビーブーム期(1971年～1974年)に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、34.8%、2045年には36.3%になると見込まれています。



注1：国勢調査による人口及び割合は、2015年までは年齢不詳をあん分した結果、2020年は不詳補完結果

2：1970年までは沖縄県を含まない。

資料：1950年～2020年は「国勢調査」、2022年～2024年は「人口推計」

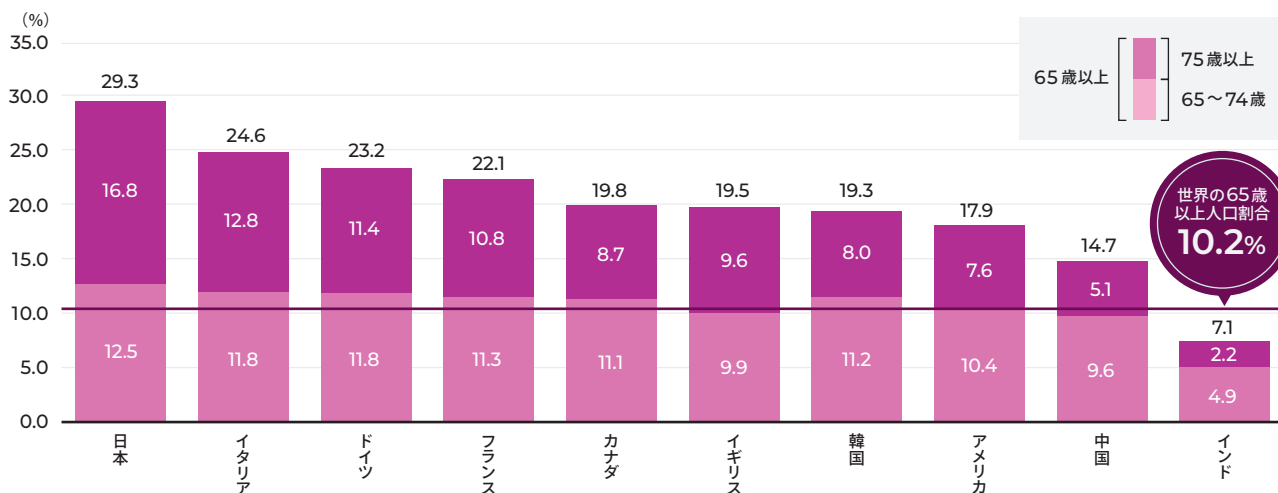
2025年以降は「日本の将来推計人口(令和5年推計)」出生(中位)死亡(中位)推計(国立社会保障・人口問題研究所)から作成



日本の65歳以上人口の割合は、主要国で最高

主要国における65歳以上人口の割合の比較(2024年)

主要国(G7、中国、韓国及びインド)について、2024年の総人口に占める65歳以上人口の割合を比較すると、65～74歳及び75歳以上の双方で、日本が最も高くなっています。



資料：日本の値は、「人口推計」の2024年9月15日現在

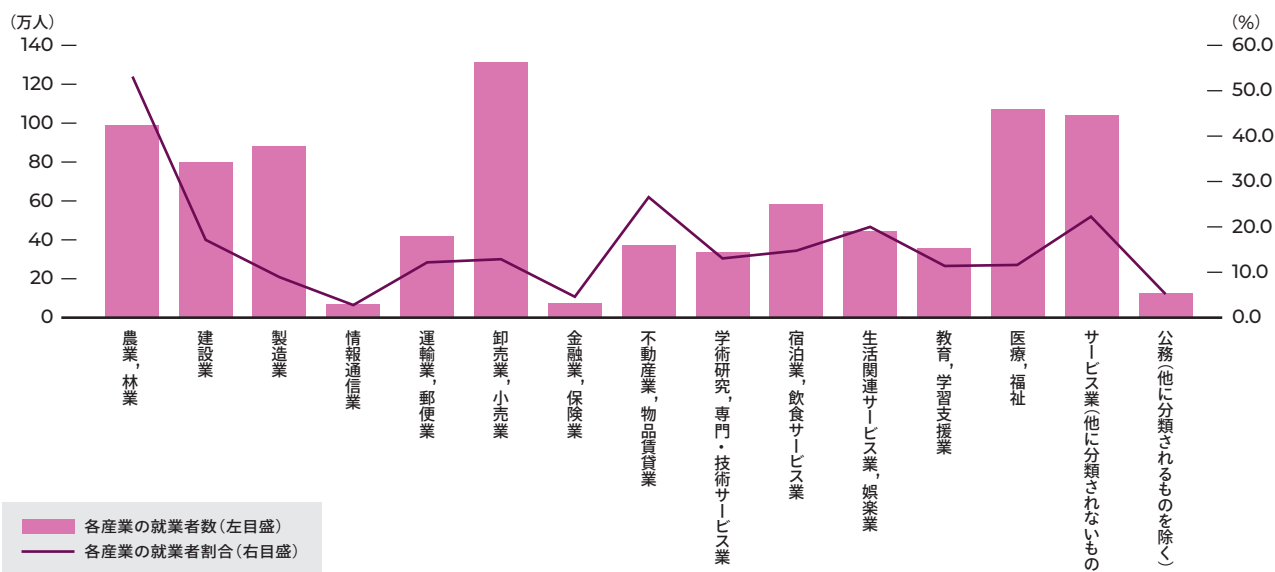
他国の値は、World Population Prospects: The 2024 Revision (United Nations)における将来推計から、2024年7月1日現在の推計値

65歳以上の就業者数は「卸売業、小売業」が最も多く132万人

主な産業別65歳以上の就業者数及び割合(2023年)

65歳以上の就業者を主な産業別にみると、「卸売業、小売業」が132万人と最も多く、次いで「医療、福祉」が107万人、「サービス業(他に分類されないもの)」が104万人などとなっています。

各産業の就業者に占める65歳以上の就業者の割合をみると、「農業、林業」が52.9%と最も高く、次いで「不動産業、物品賃貸業」が26.6%、「サービス業(他に分類されないもの)」が22.7%などとなっています。

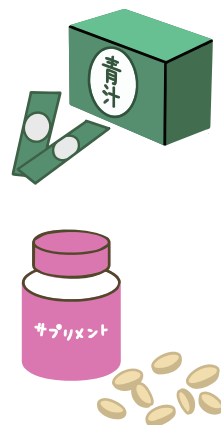
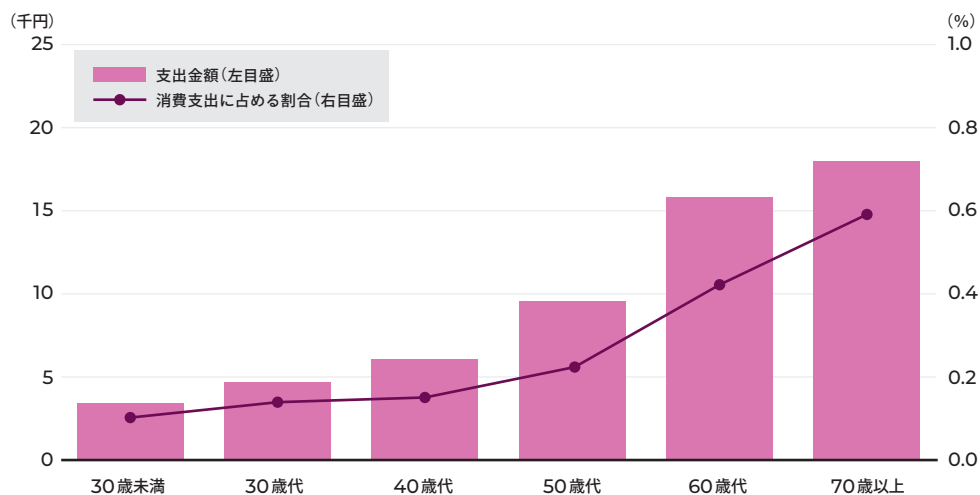


資料：労働力調査(基本集計)結果

70歳以上で多いサプリメントなどの「健康保持用摂取品」の支出

世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間の健康保持用摂取品の支出金額(2024年) - 二人以上の世帯

二人以上の世帯についてサプリメントなどの「健康保持用摂取品※」の2024年の年間支出金額をみると、70歳以上の世帯が最も多く、最も少ない30歳未満の世帯の5.4倍になっています。また、消費支出に占める「健康保持用摂取品」の割合も70歳以上の世帯が最も高くなっています。



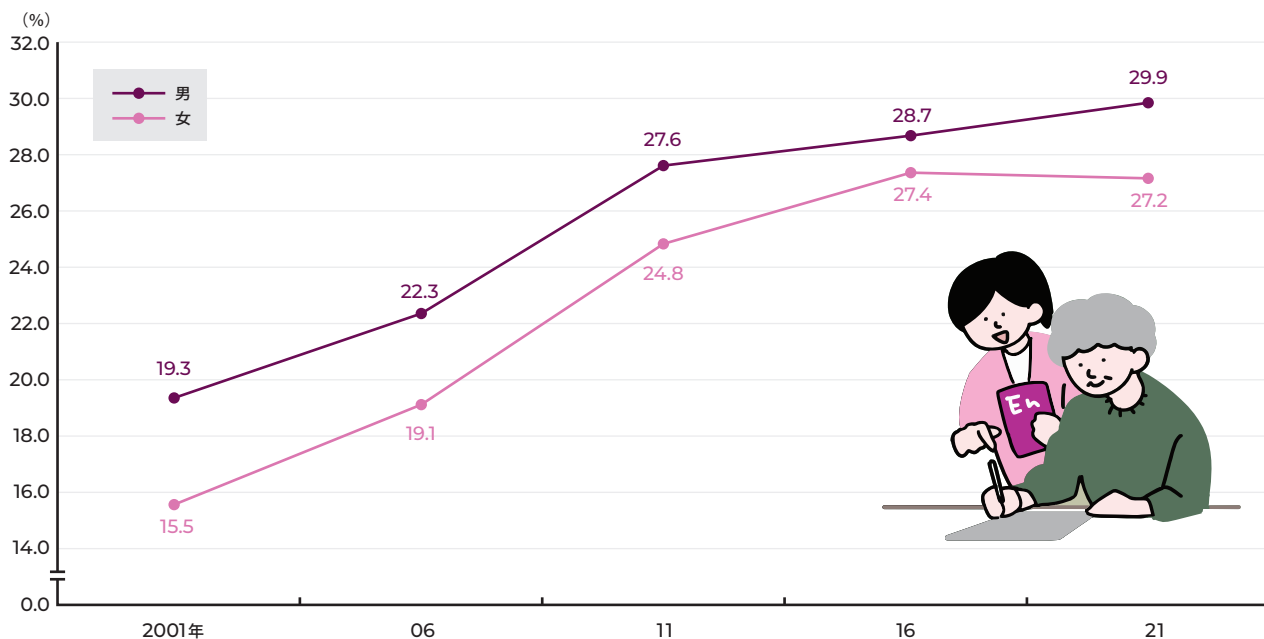
※ 青汁、ローヤルゼリー、サプリメントなど

資料：家計調査結果

高まる65歳以上の「学習・自己啓発・訓練」への活動

「学習・自己啓発・訓練」の男女別行動者率の推移(2001年～2021年) - 65歳以上

65歳以上の人について、男女別に過去20年間の行動者率※の推移をみると、女性は2016年から2021年にかけてはおおむね横ばいとなったものの男女とも増加傾向となっています。



※ 行動者率とは、過去1年間に該当する種類の活動を行った人の割合(%)

資料：社会生活基本調査結果